



甲信越

「日本一の朝」には理由がある!

日照時間日本一、母親の胎内の圧力と類似しているといわれる標高1,000mの高原地帯。八ヶ岳の朝がどこよりも気持ちいい理由だ。誰もいないスキー場で一滑りした後、熱々の珈琲を飲む。カヤックを浮かべ、のんびりと本を読む。「自分が地元の魅力を感じたまま、アイデアにした」と発案者の佐久間寿夫は語る。2007年頃、閑散期の観光客誘致に悩む地元の人たちに提案したのが「朝」。時間を横軸に、すでに地元で活動を行っている企業や個人をつなげた。三菱地所が本プロジェクトを参考に「丸の内朝大学」を開講するも、「八ヶ岳が本家本元」と佐久間。継続的成功の理由は冒頭に述べたような「誰もが納得できる理由」があるからかもしれない。

日本一の朝プロジェクト

@山梨県北杜市

●北杜市でイベントや地域誌『八ヶ岳デイズ』のエグゼクティブ・プロデューサーを務める佐久間寿夫(エフ・マジック、8peaks代表)が発案、同氏が代表を務めるNPO法人NAPが運営。



ADDED VALUE



妄想から現実へ。「循環型」島内生産

離島の地の利を生かして「循環型島内生産」に挑むのが、佐渡島の尾畑酒造の五代目、尾畑留美子だ。朱鷺がすみ豊かな自然環境を、お酒を通じて世界へ「見える化」したい。すべてはそれを起点に、プロジェクトは多様に広がる。佐渡産の水、米だけではなく、廃校を仕込み蔵として再利用し、そこに太陽光パネルを設置してエネルギーまでも「佐渡産」にしてしまおうという壮大なアイデアの始まりは「妄想から」(同前)。しかし、地域循環エネルギーを研究する東京大学IR3Sとの共同研究につながり、現在では必要電力の20%を賄う。「日本も島国であり、佐渡は日本の縮図。最先端のものづくりを佐渡で行い、全国に広げたい」。尾畑の挑戦は続く。

尾畑酒造

@新潟県佐渡市

●1892年創業「真野鶴」醸造元の老舗酒造。専務取締役の尾畑留美子は、大手映画配給会社を経て1995年に実家である尾畑酒造へ。2014年より廃校を再利用した「学校蔵プロジェクト」を創始。



UTILIZE RESOURCES



UTILIZE RESOURCES



スワクル

@長野県諏訪市

●観光、産業を含めた諏訪の魅力を発信するために、2012年、地元有志によって立ち上げられたプロジェクト。主に諏訪湖周辺の岡谷市、諏訪市、下諏訪町の事業者によって運営されている。



自転車で「走りにくい街」が、先進地域へ

諏訪湖周辺は、風光明媚な自然が広がる観光地として知られるが、同時に精密機械工業のさかんな街でもある。その両方を生かして「ものづくりの諏訪」を世界に発信できないか——。そう考え地元有志により立ち上げられたのが、諏訪サイクルプロジェクト「スワクル」だ。

「実は、諏訪湖周辺は自転車で『走りにくい』んです」。プロジェクトの中心人物で、岡谷市で塗装業を営む渡邊俊也は語る。諏訪湖は周回約16km、アップダウンも少なく、自転車に適した環境だ。しかし、日本の他の多くの地域同様、

自転車専用レーンもなく路肩も十分に整備されていない。自転車で諏訪を楽しむ人が増えれば、行政も動くはず。まずはできることから、渡邊らは街のシンボルづくりに取り組んだ。イタリアの工房で修業した経験のある職人他、地元企業の協力を得、間伐材を使用したオール諏訪産の自転車「木龍(もつくる)」を完成。プロジェクトは徐々に認知されるようになり、ついに今年、県がサイクリングロードの整備に動き出した。「身の丈に合ったボトムアップ型で、長期的視点で諏訪を盛り上げたい」と渡邊は意気込む。